



繪本豐臣勲功記

六編  
三

遠13  
2209  
53





13  
2209  
53

繪本豊臣勲功記六編卷之三

目錄

秀右光秀爭先取天王山

屬甘利大言

山崎天王山同時大戰

屬清正被感

繪本豊臣勲功記六編卷之三



丹羽換高山與齋藤戰

屬中川烈戰

松田改道戰死於天王山

屬可兒遲戰



繪本豊臣勲功記六編卷之三

江戸 櫻澤堂山 編輯

秀吉先取天王山屬甘利大言

羽小願あれども天下をわたりて楚小纏を先秀より利之  
が練を容あはせ七日おしりて天下小武棟梁とあり身より  
十二日おしりて鬘と小栗栖の竹間おしりて柄をよりし小指む  
づ猶懸しむ。然れども齋藤内藏助利之の紫田源八郎  
門勝定を招き練言の始終を詳し語り。亦わたりて言  
發けり。乃ち文明智の旗小屬し。最も新象ありといふ。  
恩愍を蒙るこころ深重あり。然れども足利も我小頼し。  
受恩の軽重似たり。這般く小存するあり。決り





深くあきらみぬ。輝くもまも珠とあらん。我膽の死せしむも  
 小勝る忠を竭し果んと欲を憐れ同心せられ。我小  
 命と賜をらんやと。粟ま小柴田源左衛門其忠と義と智と  
 勇とを感嘆するごと。屢あり。利之がのり。一藏小  
 逆をぞ。我も光秀が荷恩淡う。新期小のり  
 あ小をう惜ま。足下と借小心を一。戦死せしと同意  
 され。齋藤利之次小悦び。舍身大八郎小密意を  
 謀。其夜のち小人数を領。筒井順慶が翻攻す  
 づ。壓兵小八幡の出口ある。茂林の左右小埋伏せり。這一  
 隊ハ最も大持の持場あり。和州の軍勢変化して不意小  
 翻攻あるとする。响烈火の像く。起立て破崩せん

す因藏助が密練小。一。備思小圖小慥小。响ハ敵將順慶が  
 首を得ん。這一隊伍の運小あり。然ども茲小悲し。一。万  
 餘騎の大和勢小柴田藤藤二隊を合せ。僅一千をり  
 あり。全く勝利を得ること。か。是念明智が送りて  
 天意小叛ける。あ。其又。小羽柴筑前守秀  
 吉。十一日の曉。頭尾崎を進發あり。先陣  
 次第小列行。程遠。路次。正午の當。天兵約  
 場。山崎小を到着。秀吉仔細小指揮と傳  
 進退動靜の上。二丈一隊。伍を結構させ。最  
 敵陣と其中間遠。諸將。馳率雜兵小至る  
 叶。要鎮嚴。銳氣を持。拳と擽。脚踏鳴。







明日の戦場を待煩く。時既暮小垂うて維深の色ハ明  
 ちねと。十二分早き月光の比敵の嶽峯と澄登り。正午を  
 欺く暮天の景小秀右一個の後者と侮され潜然小自陣を  
 立出玉ひ敵陣の列相う。口方と熟く綿覽せられ西小の方小  
 待する。天王山小儼と目と属噴我あぐる忘れず。明日此地の  
 一戦小必勝の利を得つること。天王山を取る小あり。开も戦場ハ  
 山倚小く。天王山より此を觀せ玉。眼小小鏡面と揮るが像一。  
 因く彼山上より。敵を沈視炮矢と烈く放つあふ山倚小  
 戦小敵兵輩。瞬際小敗崩あ。自方の勝利と得んこと  
 攢大地掘の誓小合へ。是ぞ大持の勝地あり。維をう擇で  
 當向けん。思惟しつも陣小戻られ堀尾茂助吉晴と

此任あり。と急小昭侍い。小吉晴明日ハ山崎の一戦あるが  
 彼地へ通ずる二條の道あり。一條ハ山小傍一條ハ川小傍ハ亦  
 其外小一穿の闲道あり。其方今より鳥銃の兵士二百餘人と  
 跟從彼闲道を潜小攀て寶寺小連渡する。天王山へ地登  
 り明日の戦場を眼小沈視敵小向小く鳥銃を無二一とこ  
 小烈發ま。行所ハ斯く如くあるぞ敵將光秀も黙生  
 むねバ鄰時彼山小ころ属べ。然それバ兵士を駭攀ん敵  
 ハ之戦中く自方ハ是客戦あれば亮き軍あてけれと亮  
 秀いまぞ彼山を乗取さる。天通より翌日の勝利と秀右  
 小照く玉小ころあり。這遭の軍の勝敗ハ天王山の要崖を  
 取と取さるこの境小あり彼ハ是他軍自軍の胆又と争小



要の地あり。速く是と取れば、一勢も等閑なるべきならず。東海一萬の軍も、過失せざる性質あれば、遠絶不として任ずるあり。是れも取返し、芳功を達し、勝よくと指揮し、玉の深め、不思議の神策も、堀尾右晴膜拜直し、陣系も帰る。鳥銃の精兵三百餘人を操出し、まに奮發し、いよいよ自身丈八の槍提げ、我も續け、と馬騎出を、それがるを。堀尾が老黨吉川新兵衛、並川平右衛門、小野彌市郎、中西勝右、伊木右衛門、廣瀬専之助、一瀬仁右衛門、これらの勇士、これ先中、橋本播磨を推出せ、秀吉これあり、此場安途、一歩をたりと目送られ、分、猶胸中の秘を、も荐び、堀久右衛門、秀吉を招せむ。堀尾も、助し指揮せし、如く攻る行相を、命、

られ、收右晴を勸投せし、と兼听て、久太郎、自分の隊伍へ、老黨ある。奥田三河左衛門、小安属おき、軍行の預事と指揮し、も、鳥銃の兵三百餘人を、跟後へ、天王山一を、馳行ける。備又、北方、明智日向守、光秀、齋藤兄弟、が、呼りし、後時、を、熟く思慮と、旋らまふ。強し、明日の一戦、容易事、小あり、さるべし。よく心を、用ひ、せん、勝を得ること、終り、と、思惟の、ち、小西南ある。天王山と、瞻仰て、這、究竟の勝地あり、と、意、爲て、慌し、東方の先陣、松田太郎、左衛門を、招、倚、汝へ、這地の、導、指軍といひ、功名、ゆ、も、勝、れ、た、れ、一、大持を、命、ま、る、り、今、より、蚤く、天王山、小、馳、登、り、山、崎を、視、奔、り、し、隊、伍を、固、め、敵、進、来、り、を、戦、小、時、弓、鳥、銃、と、放、荒、し、敵、兵、う、る、を、乱、る、を、小、其、圖、小、







ぬふく二四遭も。猛列つてくる川あるべし。忽地これに破れ裂せ  
 られり。自方の勝利必然なり。明日山崎合戦の勝敗得失強  
 弱ハ天王山の有るあり。汝速に馳登り。未曾有の功を達  
 されよ。明日の軍の贏も輸も。汝が忠奮の強弱あり。構て  
 敵小棄るる。急げ河と指揮しなれ。松田政近願兼し。も。  
 跳揚りて本所小帰。並河揮部小這。我と謀。丹波七隊  
 列二千餘騎のそのあり。弓鳥銃の精兵を。二百餘人擇搜  
 出。自勢と合。七百餘人。天王山一地向。兩將よくも。這山小  
 意と屬。向兵せ。秀吉の指揮ハ甲夜の際あり。先  
 秀の指揮ハ乙夜あり。這一纏ハ閑。き。秀小南方羽柴の  
 先陣。高山右邊長房ハ二千餘人の軍勢を引率。大將

秀吉の指揮より。一日の夜の寅おらる小隊位を進めて。山崎の  
 地不到り。亦後小堅く門と設けて。秀南門を嚴く閑。せ。自  
 方といども。秀小通さ。是先目小池田信輝先陣とめて。争  
 ひ。る。潜冠。ゆやと。斯ま。小。准心をせられ。る。た。名。曉。近。く  
 ある。ま。小。や。を。れ。朋。を。目。と。驚。を。一。戦。を。あ。一。名。を。九。天。小  
 拳。を。ん。あ。と。ま。す。く。勇。氣。と。憚。り。く。床。机。小。寧。腰。又。搦  
 を。脱。せ。し。薩。刀。搔。搦。強。然。と。て。在。る。と。ころ。へ。高。山。ダ。呂。家  
 甘利八郎太史といふ者あり。平日主人の寵愛なり。未だ小  
 の。と。踏。り。し。が。原。来。放。恣。馳。忽。あ。り。他。の。指。中。も。多。く。受  
 持。せ。ば。を。り。し。長。房。も。愛。する。この。薄。う。り。し。が。這。時  
 右邊の赤小跪居声高ら。く。ふ。り。し。中。這。小。兩。段。の。決。し。が。







山崎天王山同時大戦属清正被感

従ふらんばまよく官位と輝き俸給をば是迄僕之恩ふをあれ  
 流りける程不夜も曉されべ先陣の大將高山右近時分を来る  
 と諸勢と進め喊と一吐ふ奉る程不夜合せよと明智の先陣是  
 へ敵ふも名と得る。齋藤内藏助利三子息伊豆守利光明  
 等十郎左衛門光親奥田宮内景弘係か四千餘騎一十餘騎減まる  
 異に同音小喊と合せ魁兵隊小列する。鳥銃一吐ふつるべうけ  
 猛威と示せば高山勢も劣らむ銃をさびりく放せ雙方多  
 卒の練兵をね。士く卒へ只顧ふ進むことを専らて退く  
 の意を。炮術鎗術ものが随意懋す烈す。炮烟の彌白  
 小煙するありより陰節間つらう突發し。撲つ棍をつ斬結ば

つ戦ひの花は綻びたり。時小高山勢の中より烟を左右小細と  
 りけり。第一番小廻り出敵陣中もまど業烟の情ぶる中へ  
 驀地小廻り投儀田家帛合戦第一の先陣。高山右近長房  
 が家の臣甘利八郎太史。今日の一番鎗と勢高く小廻り呼て  
 勢さめり。雷烈の像く。齋藤が卒頭倉持茂太史小廻  
 て蒐る。茂史更這駒鳥銃の駈卒と收退蒐くわりける。甘利  
 を看るより采幣と腕小掛太刀撃致めり突出を鎗の先と  
 斬り拂えんとまると甘利もやも袖緘小徑の隙合と破  
 と擲魚所の痛疾小まきりもたまるを馬より墜るをも急ぐ  
 も首撥破り起揚る。背頭小舎身倉持二郎公清兄の敵  
 を適をまると突出鎗夫扛潰り。八郎太史も鎗操整し。





甘利八郎大夫  
 大言と吐く  
 山崎合戦の  
 一番鎧を  
 成す

豊臣評話六巻之三



豊臣評話六巻之三

九



流く身哩と合せが。殊小勝れ。甘利が陰術。金持が陰を  
 致付く。一場叫んで瀧出。荒矢の陰花銛。目も決らむ。  
 身と避る際もあざし。延綿より綱ひて。瀧貫うれく  
 暗とも叫をた。倒るころと八角太丈。首控落し。二首  
 一擡提く陣小弛。躍り。右邊が馬糸小突。立く。決す不忠  
 の罪犯るあ。これ視をみせ。一番首。二番首。これ一人を  
 つらつらぬ。沖許あれと不敵の一言。高山長房。大子驍。功  
 譽くと賞嘆をう。是と合戦の報と。双方憤突烈  
 斬まると。火とゆき。金と刺まると。像く。巖の浪を碎く。小  
 齊く。追つ捲つ。怒花血。網羅の糸系。當標まぐ。や紅小  
 深成り。あう中も。明智の冠隊のあう。阿田兄弟。池田

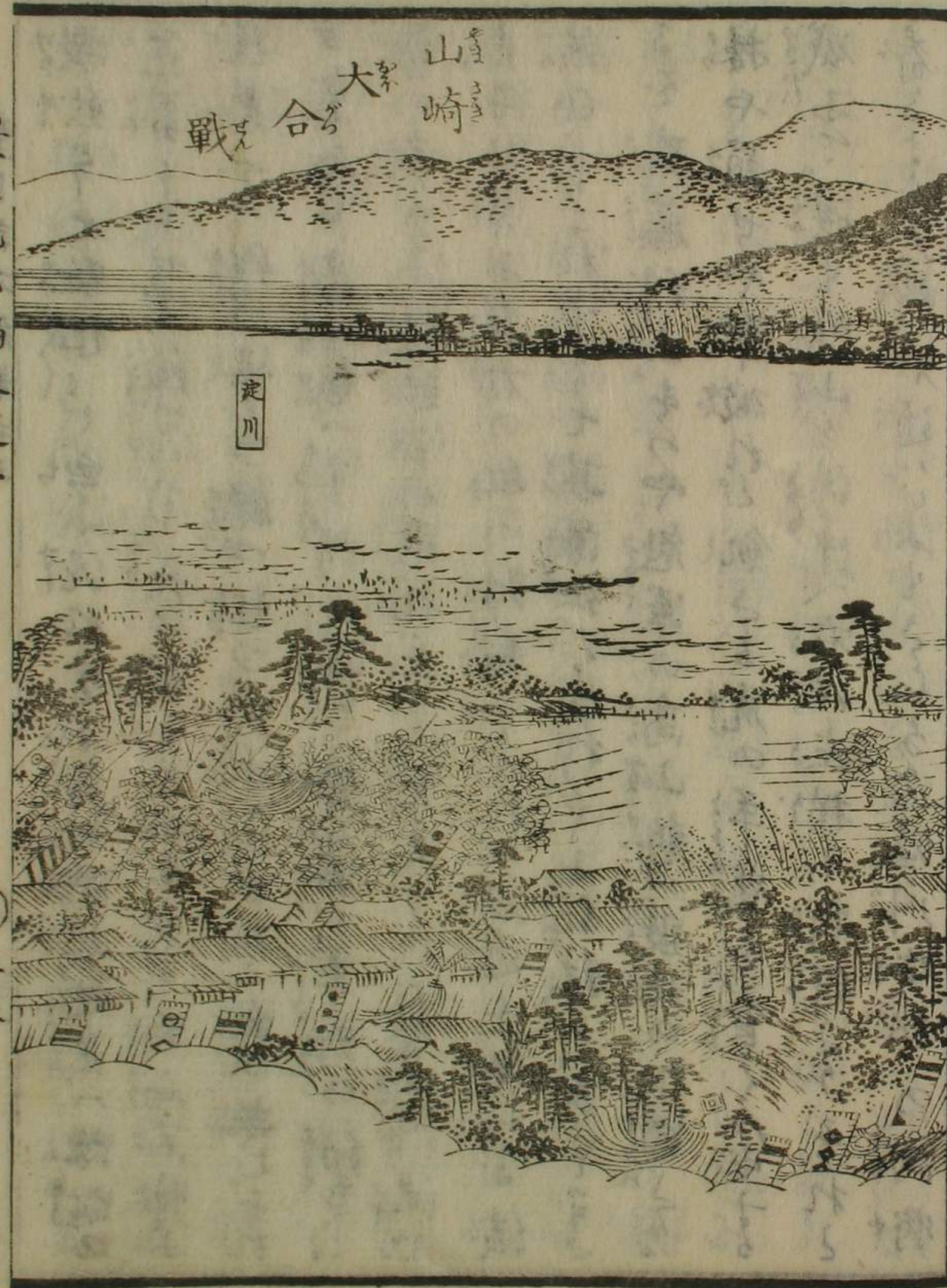
伊豫守。後藤喜三郎。久徳六。尾門小川土佐守。あといふ  
 猛将。号叫く。鬚黒小あつ。攻戦小。備亦羽柴。二陣の  
 大将。中川瀬。玄清。清秀。勇悍。他小技。劣る事と。大不  
 愧る。性質をた。自己が隊。仗を。進む。やいふ。二の緒。あも  
 構らばこそ。自身。の功。譽と。専一。く。敵の。右。ある。冠隊。仗へ  
 軍。驟。急。小突。投。ま。あ。う。あ。も。大。將。瀬。玄。清。清。秀。を。け。う。ら  
 丈八の。威。操。練。亡。君。右。大臣。信。長。公。の。吊。軍。ハ。斯。く。と。ま。れ  
 と。山。も。崩。る。大。音。あ。く。獅子。奮。迅。の。猛。威。と。發。一。騎。馬。武  
 者。歩。卒。の。嫌。い。あ。く。擲。刺。し。く。死。骸。を。踏。蹴。拵。着。て。躍  
 除。血。の。波。た。く。烈。戦。ま。る。然。る。小。敵。の。右。隊。仗。ハ。伊。勢。之。水  
 正。源。坊。飛。驒。守。之。枝。三。太。右。門。同。助。玄。清。藤。田。傳。又。部。櫻。井



新たつ。逸見生之。先番川刑部依二千餘騎。小烈一指揮  
 なし。各心鬼小騎速ね。頭背らむ後路へ退る。息も  
 次が。接合不ふ果。あつと看え。うらり。次小南方三陣の  
 大將。池田信輝。入道。勝入齋。これも一二の後。詰小接を。代  
 河方小勝。敵陣の。左隊。位と斬崩え。と。横。陰小あり。く  
 二。二。二。小。啞。叫。く。突。蒐。る。明。智。か。這。隊。の。隊。將。の。津。田。共  
 三。所。志。水。嘉。公。治。渡。邊。深。た。湯。の。村。上。和。泉。守。山。本。對。馬  
 入道。進士。作。た。湯。の。その。わ。く。於。系。伊。勢。上。野。村。本。伊。藤。古。田  
 の。門。く。ま。り。も。猶。豫。あ。ふ。こ。そ。双。方。一。吐。小。數。百。の。身。銃。電。霰  
 の。像。く。小。列。爆。な。し。洞。と。衛。て。戦。小。相。へ。雲。小。跨。る。万。砲。の。霹  
 靂。火。中。小。躍。る。像。く。烈。く。も。亦。いと。看。冷。中。も。渡。邊

津田志水。大坂。小。お。り。至。入。信。澄。と。代。れ。れ。別。て。憤。怒。の  
 氣。と。顛。一。尼。崎。より。連。身。一。熟。煉。の。自。勢。小。銛。く。指。揮。を  
 激。波。の。像。く。猛。火。の。像。く。咆。も。燃。る。殺。威。を。振。ひ。礮。響。り  
 て。駭。起。ける。あ。を。了。得。奮。猛。の。池。田。勢。も。こ。も。の。ま。町。を。り。  
 かの。先。組。と。退。崩。され。り。入。道。勝。入。齋。大。小。怒。り。功。あ。き。自  
 軍。の。脚。列。よ。み。兵。家。小。生。れ。く。逃。る。より。外。小。恥。辱。い。あ。き。の  
 を。汝。們。天。下。の。士。と。あ。ん。ん。小。耻。を。知。れ。や。耻。を。あ。り。や。死  
 せ。し。も。逃。る。る。退。く。る。と。怒。暖。る。す。で。踏。く。指。揮。を。し。心。鬼。小  
 進。を。強。出。せ。ん。父。と。毆。ま。る。や。續。け。と。子。息。信。濃。守。信。之  
 一。駭。父。小。先。ト。な。れ。老。黨。片。桐。半。た。湯。の。伊。本。清。公。傍。秋。田  
 嘉。公。傍。梶。浦。兵。七。武。林。小。平。太。片。桐。與。三。所。あ。ん。との。勇。士





豊臣評六編卷之三



豊臣評六編卷之三

羽柴方 高山中川池田  
 總勢三隊一万余騎  
 明智方 齋藤津田  
 藤田濟九千七百餘騎也



激然とて駈起く。血も泥れる小石と跑起。炮矢ハ蜂の  
 花員ももせを陰刀ハ芋花の觸ともおかしす。面不背小  
 攻蕘より。往つ返つ轉つ起つ。火水ふあれと戦ひ挑む。それ  
 がかろふも高山勢ハ了得小猛き齋藤が軍列の結きと。  
 勢の多き小接起られ敗相まゝ見ええられども。中川池田  
 愈それく小。左右の敵小対戦しこれハ右邊を助くる後  
 法小。これ小よりて其隊伍をなれく小乱起く。あゝとて  
 るを齋藤利之。まじや冠軍の高山勢ハ。敗北の相頓より。  
 接や崩せや撃破れ。飢くる虎の羊鹿を食らんぞす  
 威あり。疾も高山ハ陣中へ右往左横小斬投よりそれと  
 看るより大將右邊ハいよもさらあり。塩川安部の両將

利ハ八郎太史ハ。敵數十人撃投くおろしとの乱れとあり  
 千復百化の擡きくろく。主人右邊も戦ひ疲れく。既小  
 危く看えくるや。それを披けく。稍雲時。陣を退け息  
 次在り。内務助ハ這圖とをさす。一軍とて後行させ  
 を曲く隠くまきまゝく。指揮なり。くろくを名士あれ。  
 斯の如く三方小。戦闘す。くも間あり。が差小先刻  
 筑前守が指揮を領せし。姫尾辰助吉晴ハ。三百餘人と  
 蛇行小くく。その速き。緯度炮の如く。水を瀬川と組  
 と。谷寺の西陰より。津去谷の南と攀て。牛の背馬の  
 背の雅所と厭を。逃くも山の才破せ。自勢と競くを



探登せ。細刻息とて、堀久太郎登来り。某ある輪石の  
 若晴也。噫、其の甚くは、維新の志、下加さる。堀久太郎秀政  
 あり。又、久と兩勇、迫づき、倚、遠、秀吉の指揮せしところ  
 を感佩し、つゝ、練合、さし、つと、兩軍、猶、勢、つ、峻、涸、の、路、を、以、  
 とも、屈、せ、を、を、雙、の、後、助、が、統、と、進、め、ば、續、く、絶、倫、の、久、を、所、  
 虎、と、敗、く、攀、登、り、つ、つ、難、ろ、み、頂、を、絶、め、ろ、み、ま、ご、敵、這、  
 地、を、取、さ、う、ろ、れ、高、將、大、不、敵、驍、と、速、く、も、隊、伍、と、固、布、  
 う。浩、ろ、所、へ、先、秀、が、令、と、受、さ、る、松、田、太、府、左、衛、門、五、右、衛、門、掃、  
 部、が、七、百、餘、人、尾、を、燒、怒、牛、の、奔、る、が、像、く、觀、音、寺、山、の、  
 麓、を、廻、り、北、の、岫、より、推、登、る。這、胸、後、助、久、を、所、へ、山、上、  
 不、備、く、あり、ろ、ろ、少、嚴、く、跋、率、不、指、揮、を、け、る、也、息、と

吞、身、を、慄、し、し、潜、沈、却、く、勒、へ、う。夜、い、ま、や、寅、の、下、刻、か、  
 れ、月、西、山、の、高、峯、に、沈、く。路、上、に、松、栢、茂、稠、と、覆、翳、  
 て、咫、尺、も、明、分、を、これ、が、ろ、ろ、山、上、に、敵、の、あり、とも、更、不、  
 知、れ、を、松、田、五、右、衛、門、の、軍、勢、へ、を、ろ、も、情、く、氣、色、を、を、罵、  
 馳、来、る、を、若、晴、秀、政、備、へ、と、意、得、敵、進、する、を、  
 發、聲、よく、指、揮、不、備、く、同、發、せ、し、と、六、百、餘、人、と、九、段、不、  
 列、合、せ、各、統、節、を、目、下、に、捨、着、敵、の、動、搖、め、く、聲、と、的、  
 當、ふ。統、量、よく、發、え、と、潜、息、と、の、ん、待、蒐、う、北、方、  
 の、兵、士、は、二、三、三、子、巖、石、倒、樹、壞、顔、の、惡、所、と、些、とも、  
 厭、ま、ら、ん、と、羊、腸、徑、を、追、起、く。熱、湯、の、像、き、汗、を、振、て、  
 單、走、不、弛、と、ろ、松、田、が、勢、と、堀、尾、が、勢、と、其、際、漸、く、迫、づ、き





堀尾勢

天王山



堀尾勢  
天王山上を  
松田勢と  
追落と

堀尾勢

天王山



々ね。吉晴秀政をさく指揮す。敵は百歩のうちあるぞ。  
快撃發せと聲もやまぬ。魁銃を撃出せ。續ひく一隊  
四十八發右方の音響ゆ。左方の連發。汝等をうつく九波の  
鳥銃。六百餘箭と捲轉く。撃やふ放つやど。炮玉さる  
阿魯城の熱鉄丸雨も斯やらん。天王山の半腹あ。大將  
松田太新左衛門。呀。敵兵へ登くも山よふあり。若るあ  
怯む。鳥銃うくと指揮小部隊の一百餘人。炮音齊く  
をりしと撃起く進くる。東山小曙光閃ゆき。  
樹間明小見えけり。吉晴秀政下を視す。敵の  
魁兵へ斜ゆ。中隊伍へ平あり。後々筑州の所指揮あ  
り。銃程こそり。小あるあれ各かる。ぎ敵の先陣と担

をりしと只正中央と撃倒せ。中隊伍をきびくうと聲を  
究竟小指揮する。六百餘人食らる。得奉下子燦と  
爆くと。銃續速小撃出せ。嗚呼を攻登る。松田が七百の  
中隊伍吐路く吐と撃倒され。慌忙後陣のかぐ。  
右轉左倒小蕨蒐る。これふひうれ。後方隊も脚踏遠  
く進る。得む先陣もあふらうれて。進退猶豫す  
けるを。松田政道氣と焦燥。是球この山を取返さんと希  
後の駛率と馳り懸り。倒る。自方を踏揃く。這と途  
と護名すり。備示山の戦闘。二方六隊一万八千二百餘騎  
明。四方の二合。合て八千七百餘人。努力と振う。攻合や。炮爆味。都  
率とまても。驚くま。看す。落りける戦場の所見を。





稲次万五郎  
自方の  
銳氣を  
減さうら  
しむ



明智の舟儀登くも視決さうく返して大將の馬番小鞍儀  
 て延伸さうく。合戦既小三ヶ所一疾播合さうも正中の  
 冠隊。赤藤利之助ひ小極く高山勢と破崩し捷相看  
 えりと呼り奔り馳出ま。継二番の細代武者天王山  
 より馳戻り。松田小先達彼山へ款を登くも陣取ると太  
 左衛門取返さんと。戦争最中ふゆると告同く馳出ま。  
 これを聆く日向守岡くやわひけん。呼く誰うある冠隊へ  
 馳行阿岡鳥山。後藤の門く内藤助ふ力と勦せし。彼高  
 山を斬崩せ。勢よく急ることあつれと傳令せし。その聲ふつれ。  
 稻次万太郎先定。輝謝をせし鞭をわげ。崩黄の隈小風  
 吹せ。飄く然と強り行。先秀るやも山方の合戦危思懐ひ

多れ。急く溝尾庄を招き。汝自勢を率具し。く  
 天王山之馳参り。松田が兵と帮助べし。をば使くと傳令  
 せし。小左。赤松朝領兼なり。三百餘騎の自勢と  
 率し。天王山之馳向ふ。嘗く赤南方の總大將。羽柴筑前  
 守秀吉。後陣小あり。本部の兵を都督ふし。嚴烈小  
 勤く。五ヶ所。這方も等しく。舟儀を走らせ。戦場境の  
 挑相を。陣小聆し。めされ。緒隊の強弱あるを考へ。兵士の  
 増減を察量く。万端まきり。剛断を。指揮を傳へら  
 れる。が。款の先陣強くし。高山右近が敗怒多し。聆し  
 めされ。先さう。丹羽を。高山小代らせん。自身長秀  
 が陣小行。駒門小留り。誰うある。誰て戦場の相と精

豊臣記六編卷之三

廿八



一々視てせわれど命不加藤虎之助。鷹と領受一双拍  
 りれく。韋駄天の像く小馳り莫り。河津殿の舟假加着  
 虎之助と号呼く。二口の戦場。這不那所と馬持轉  
 一々視旋るとろふ。中川瀬々場少對敵ある。明智方  
 の右隊位。伊勢主水が舟假頭。近藤半助と号名。葛原  
 白の久澄。小抱角の金標揚る。兜被る。馬上雄く。一  
 率小指揮あり。身洗く。せく馳旋るを。清正もろく小  
 信と着て。呼小懸く。や半助とやら。心憎き。舉止あり。深奴  
 活あふ。自方の障得ぞ。舟假の纏頭。小一太刀揮て。懸生を  
 氣速き。清正突と馳進。お拾よき。奴ぞ通せり。観會  
 せせといひせり。三尺九寸の太刀。掣撃せり。群がる。敵率溜散

炮震矢雨の紛く。露く刀霽。戈塵の関くを。いつろを殊ともひ  
 さる。こを。露草と踏分やくが像く。驀地小駈。投降降もたぐ。  
 加藤清正舟假の澄。小近藤半助と撃。捉るといひ。敵と共  
 小割着る。太刀を避ても。追ぐ。こそ。左の肩より。撃せり。  
 太刀音。殺馬と放。つ。これ小駈。き。後率。輩。鳥洗もいつろ  
 抛。兵。口。方。一。瓶。と。逃。教。す。これか。あ。り。中。も。近。藤。が。股。肱。の。兵  
 輩。七。八。人。主。人。の。敵。と。群。合。荒。を。音。も。て。さ。せ。む。は。人。と。八。派  
 果。果。これ。人。間。あ。あ。る。ゆ。り。と。肝。と。冷。く。驚。嘆。く。り。追  
 進。敵。も。あ。ら。ず。ね。ば。群。小。馬。より。下。さ。る。半。助。が。首。と。法。の。如。く  
 小。擡。墜。し。腰。小。着。る。泥。紙。袋。小。これ。を。收。め。それ。より。山。池。田。う



加藤清正  
存候  
鳥銃隊伍  
近藤半助  
主従を  
撃









な残りしそ忠せを最切小褒賜ありけり。

丹羽撫高山與齋藤戦属中川烈戦

見中の聞聞中の見濁中の清清中の濁。是細作の傳たりとを。是見中の聞と濁。既小豊高山の陣の破るを知。是と清正小舟候ありと。清正自方の鋭氣と激し。高山が陣ハ戦最大ありとのり。是見中の濁中。濁を清正化さるる。驗小名將の細作ハその天竺を得。ありね。あんどこれを感賞せざらんや。時小羽柴筑前守丹羽長秀小宣さ。今高山が隊伍撓て。戦持ちがさる。然こそ中川池田の勢も對戦さるね。故小暇なり。預くハ部下の隊伍とゆ。言山小撫らせむ。

との命小長秀承听りぬ。其隊伍と賊を。然れども齋藤内義助利三ハ大将先秀の指揮さ。稲次万兵衛が傳令と驗。惣兵を懸す。わね。つと。大將のの。を。盛中。兵人の。齋藤河内後藤と。大將の。正冠と並。只一推し。擡起。其極勢ハ大番象の七海水と流る。像く。西渡と巻起。擡起。高山右邊斷と。も。屢隊伍と。整。死力を。苦戦さる。部相自軍もあ。今ハ戦死と覚悟と決。親も。樹も。ま。親子兄弟。主従の。言。右佐左。小乱。報。大將右邊も。と。碎き。擡。小。戦。ひ。ける。大。袖。小。袖。も。腰。甲。も。あ。う。を。散。破。く。血。と。漉。ぎ。向。く。剛。さ。







齋藤利三へ登くも丹羽が馬標の輝映来ると遠く視  
 る。是高山の助ありと。察悟しければ諸將へ其意を指揮  
 なし。新發の兵と賊出。戦疲れし兵輩と。後隊より  
 一と寇蒐へ鳥銃の兵と備させ。丈丈不固りて待とも知せ。

高山勢不代りし。丹羽が寇隊の鳥銃列喊の勢と一夜不  
 二百除發と一吐不撃せ。吐烟陣不漲る時。長秀鎗中  
 うらと招け。得たりや。嘔と二千除騎。鎗面連ねて突奔し。

甲標當機不傾け。怒潮の湧く殺奔を誘く。兎脱の  
 夜及勢。撰中し。鳥銃の精兵。二百除人同發。炮丸續  
 速く擊起くと。懇熱なるつと。攻けるるふ。おのこ。後る。款  
 兵の強り。それ堪得ず。丹羽の寇並二三十騎。去る。が。倒し

撥他く。と。撃倒され。先隊伍。を。撥と頼ると。他本  
 積登の入り。た。些とも。隊伍と。駭せ。兵士の。足と。踏留させ。

頼不烈。指揮する。を。悍勇。驍猛の。丹羽が。老黨。多き。が  
 なる。も。村上。次郎。左衛門。金左衛門。堤左京。尾藤。彦兵衛。

吉田。小源。太。青山。信。賀守。富田。武。義守。望月。六。郎。兵。衛。

能。先。探。へ。憤。突。み。勇。名。得。る。款。の。先。頭。奥。田。宮。内。全。市。

助。磯。野。彈。正。後。友。喜。之。郎。河。田。淡。路。守。多。賀。新。又。右。衛。門。

鳥。山。主。政。久。徳。六。太。海。小。川。玄。佐。守。池。田。伊。藤。守。備。小。樺。合

令。ハ。期。ある。もの。を。末。世。不。殘。る。名。を。惜。た。れ。款。將。の。有。ひ。つ。

ども。投。る。退。く。とも。逃。脚。する。捲。け。や。つ。と。自。他。とも。不。懋。な。され。

勵。す。つ。烈。然。と。て。傑。戦。し。る。這。戦。の。た。不。隣。る。池。田。入。道



勝入衆ハ津田村上山木進士志水渡邊係と接戦せしが  
 敵將各勇猛なり。特小烈しき威を振ひ怒声を發して  
 號き叫び獅子の像を奮迅せしむ。象の像を奔走せしむ  
 て。恰も耳目と驚くせり。是小周く池田勢おのひのり小敗  
 得ぞ。却て魁兵の倭僞小乱蕩ると看るるも。池田が老  
 黨伊本清公傍斤桐半右衛門其外秋田武村虎尾堀浦  
 あんどの猛兵勇士。兎も袖も槍拋棄。當慄ハ地上小衛起  
 置身。慄小ありて意の隨小。騎馬とぞ。一鼓率とふと。  
 波変雲化の術と竭して。戦闘最も火急あり。備亦中川  
 清秀ハ二千五百の勢とゆつ。敵の先軍の右隊伍伊勢主  
 水正。紙坊花驛守友田。三枝接井倭と。挑闘せし。破竹の

像。然る小清秀が猛勇ハ。和田伊賀守と輕く捉ふる。功益  
 めて他ハ独知なり。然るも勇士の凡氣うて。瀨之衝の極威  
 小怖れもせん。烈突激戦するも。小容易敗る。とも見えさ  
 り。大將清秀大不瞑り。嵩をも疎く。怒声と發し。いつ  
 身を這方小時を移さぞ。自方のうち小。備我隊より先小  
 脇をば取ら。時ハ中川瀨之衝。船あるがや。弓矢ハ橋  
 這敵と敗り。山彦の地と立去り。只死ねや  
 進め。と叫ひるが。小千面百角小。難起斬伏。或ハ搏  
 人。捕馬をも人とも嫌ひる。撃扱がれ。敵兵今ハたまり  
 得ぞ。東轉西倒。小逃愁小を。瀨之衝ハ一瞬。すくも。一馬左  
 右小。りむら。猛猪の兎。猿と追相あ。精力結小。攻着



ける小を。敵兵は多く懼怖し。清秀が邊へ侍付を。這様海  
 小岩ら下と。同苗圃之助。小七右衛門。右小翼。一擡きけり  
 右へ歩行。左の馬。上。擡伏。獲伏。その馬。小首。とも捉らる  
 馳旋り。一馳をせり。取て返。一弦かけ。ハ推戻。一縦横を  
 邊。小奮殺。を。那方。も。名。小逢。小。伊勢。飯。坊。藤。田。必。死。の。猛  
 力。振。せり。とも。頗。く。運。あ。や。わ。り。つ。ん。浮。足。と。り。く。覓。と。ん  
 ぞも。一途。小探。と。崩。起。南。奔。北。走。將。つ。倒。つ。恥。を。忘。れ。ず  
 敗。崩。さ。る。小。ぞ。大。將。宗。撃。う。ち。揮。く。山。崎。合。戦。第。一。番。の  
 功。負。中。川。瀨。玄。術。清。秀。あり。と。声。高。ら。く。小。呼。を。り。く。敵  
 陣。深。く。斬。投。ら。ん。と。馬。と。進。む。突。頭。小。敵。の。副。將。三。枝。勘。玄  
 備。兼。次。小。諸。あ。く。破。他。と。出。會。り。る。其。良。對。敵。と。瀨。玄。術。清

秀。滄。操。出。り。て。擡。蒐。る。這。方。も。噫。と。鎧。尖。と。交。へ。奔。馬。の。往。來  
 二將の用合。その速きこと。水。上。小。月。影。棄。ん。ま。る。く。傍。へ。活。き  
 こと。石。中。の。火。と。探。ら。ん。と。ま。る。小。侶。り。然。も。勘。兵。衛。瀨。兵  
 衛。が。武。勇。小。勝。と。あ。ま。り。一。突。の。烈。き。猛。勢。避。か。く  
 眉。間。を。殺。馬。と。擡。貫。じ。顧。逆。小。馬。より。踰。る。を。從。兵。登。く。も  
 首。擡。落。ま。これ。と。同。時。小。瀨。玄。術。が。身。中。川。瀨。之。助。と。号。す  
 蒐。三。枝。之。右。衛。門。小。擡。り。合。銅。光。と。散。り。戦。ひ。が。勘。兵。衛。の  
 那。所。小。毆。る。と。見。て。忽。地。勢。力。や。滅。り。けん。これ。も。瀨。之。助。小  
 撃。つ。と。し。り。備。兵。同。名。小。七。右。衛。門。當。る。敵。も。出。會。り  
 焦。燥。狂。し。馳。旋。る。機。會。を。宜。々。れ。一。個。の。大。將。得。る。ん  
 適。さ。り。嗟。呼。と。立。塞。ぐ。る。誰。ぞ。と。問。這。隊。の。大。將。伊。勢。主。水。心





山崎  
合戦の内  
中川瀬兵衛  
兄弟  
猛戦





貞興ありて首捉く功譽ふせよと敵陰捨舒擲蕘る。應  
 嬉一やといひ候ふ。縫陰関流と鍋出まを。貞興とやもその  
 首緊と捕へて喉輪とをり。先く鍋よと死の覚悟小。  
 小七右衛門も驚とまると感とこれとも。駈小敵あれは道  
 されを所免そと擲貫きそのま首をぞ捉へける。誠小  
 明智が運と察決り。死を明小せ。伊勢貞興ハ大将の氣  
 顯とて。驍すりける。最期之响小大将瀬々清秀令と  
 傳つて。凱歌と唱ゆ。中川一隊の二千又百騎。矢口同声小  
 叫く。噫と一吐小發まると捷喊へ。山川勃然とて變化とる  
 と。漂くこそ。聆えられ。然る中川第一番小敵を破りて大将  
 副將の敵を捉直小凱歌を唱ける。山崎合戦の功名。

清秀とめて魁首とて。續く敵の左備小密止と喰着烈戦  
 一ける。二陣の大將池田信輝素より戦死と覚悟せ。極憤  
 るねば。中川小劣るべき。自勢又千又百餘人と激進を  
 一や一率をぞも退ぞうせ。阿付とて。南万丸の先隊小進む。  
 津田志水後邊侮を。激塵小せんと突まると。叫く。勢とて  
 攻着とて。命惜まぬ。明智勢も踏留る小。膂力遠む。貞興の  
 強率八九十人。又足地首とて。陣蕘とて。池田の勇士。伊豆清  
 々清。斤桐半た。同共二陣。三騎驍とて。鉄先とて。千角  
 万面小突當まると。信輝の一子。信濃守。信之。自勢。一千又百  
 餘騎を。雁行小進ませける。河邊小勝て。山本入道。村上  
 和泉守が。備とて。横合より。乱割とて。百發とるりの。鳥銃小



敵の足連と撃棄す。此處よりや突碎せし。烈火の如く捲  
起られ。此極憤不堪得也。突と確く二陣のうへへ人出  
しを打ちつりたる。

松田政近戦死於天王山馬可兎遲戦

個々命あり貧福尊卑こそ一なり。小の得ること絶せん。是れ  
の所作不随少く招く所。食是天の取しむる小おれは一座  
を主の天王山にぞも。これをめりし取しむる。よく其遲速小  
開りる事。天命あるといふせん。然れども松田太師は御門  
政近は天王山の山腹中にて。堀尾が活き發炮小中られ其身  
ハ中隊伍小あつて指揮しけり。眼系自兵を撃倒されり。  
方僅ハこゝろ。堪がつけれども。巨捷絶倫の松田政近す。し

猶餘るをいこそ。倒る自兵と躍除鞆を傾け脊を傳ぬ。  
蓬風兵輩が性根多。活る殺所小款あるうへへ。退くとも  
進むとも。決しき活べき路ハあきぞ。切至撃れり死する  
か。逃く配き死とせんより。進んて受好小戦死せし。籠小  
せし武士あるもや。向も不思議小功益もまじし。逃て武門  
の名ハ取られぬぞ。懋めや兵輩と戦へ。暴雨の像。飛来  
淺丸と。お拂く。さづら正冠小顯れり。声暖る。手で指揮  
しける。心同燦や。おひらん。我小續けと馬と躍らせ。丈八の  
槍と守小鬪。隊伍を離れり。突然と。十五をり。單登を  
これか。め小先中。後の乱と。蒐りし。松田勢。恥をおひ。利と  
おひ。動揺めき。紀て。足踏場し。これ。劣らし。と。續く。印とふ





天王山小  
躰後て  
松田政近  
乱炮の  
中  
戦死  
を

豊臣言六巻之三



今ぞ松田が天王山を。衆取りめきと看えしう。山腹少の赤  
 吉晴秀改左右の崖小立別れ。敵と視却し指揮一在り。松  
 田改道描て。單登しつる其武者粧。襜の毛さ清新中。  
 大袖小袖腰甲赤と白とと段く。緘交する三重鞞鞞騎。  
 馬の赤鬃小。燃起むりの篤棋うけ。も小持槍の白き棟。  
 敵の血とめて。濡るの勇巧号呼らむも。あれ這隊の兵將と  
 細るべき武粧。各助吉晴儼と視。渠醜こそ敵の采領  
 あるぞ。外の駛車小目を著至む。正魁小進む敵首とて  
 收撃墜せと指揮する。やがふ。九浪の駛車声小。夜とく。  
 我うちとらんと手精の兵輩。颯固く當的。一騎。三に百の  
 後丸と吐小放て。冷む。松田太尉。改道。拂らん

とする鎗の棟小。七八發も中ると看えしう。千浪巻くら石突せ。  
 六七切小。歩折れ。手本三尺残し。う。危やと看る際小。赤  
 放乱く。飛來る炮魄ハ改道。綿齒をうして撃徹れ。右の  
 眉端小血烟暴く。起間ひ。う。發の銃の厚きも。嫌は  
 發布と鳴る。音より先へ腹巻の糸ハ血烟丸烟赤黒混  
 て深霧を馬さへ四五ヶ所。炮魄負う。苦声と發し。く  
 倒る。子ど。主の骸ハさ。う。拵本と欲く僵せ。像く。撞  
 と轉へ。山谷も。一途小。傍く鳴彌る。上。小。發助。久太郎。兵  
 輩看よ。敵將を。撃捕する。得たり。や。得たり。と聲を  
 涯至小。呼ら。樹木と敵て。乱。傍。起れ。六百餘人。同音  
 小。炮。筒と鳴。く。叫ん。う。山腹小。ある。松田勢ハ。主と擊れて

豊田言六續卷之三

三十一



命に堪へん。怒りて前を後とす。上下左右も看決めせ。  
 混顔難倒するす。後陣ありける。壱川掃部もこれが  
 ころ小進も得せ。上と西將烈しく指揮してうてやくと  
 呼たる怒り列と乱しく滅多撃。飛來る鉄丸と茶烟ふ。  
 天地も看分ること難た。登りぐらぞおろぐら。滑りたる  
 如く溝尾庄兵衛百餘人の自塙を退起。天王山小馳着  
 一が斯と看るよりまゝ馳舞れと速くも山の半腹まゝ攀  
 蹴りて壱川小代らんとする。機會をわれ右晴秀改  
 活く声發。敵の勢の加わりたるを。退落せやと一番小  
 崖の左右と跳りかたり。大喝叫び呼び起れば。両勢六百餘人  
 声と合し動揺ゆきつれ。天王山も崩るるなり。脚下の

敵の腹上より。只一碎と落し。蒐ま。焦燥し進み。溝尾  
 勢も一足半歩退得せ。強きも弱きもろろ論あり。愈總  
 利地小山下。退落されく自と自が刀小痕を蒙るあれ。  
 自方の自方と突もあり。踏倒されくいやが上ふ。十層以層  
 あを甲兵の凹路を捕るころもあり。削崖より陥る。荒兵  
 へ又尋七尋轉くと止まる。方あり。各同士懸せし  
 る。和と小。合き兵士も看えざる。掃部庄兵衛做べき  
 やうあり。懸断しつても退きける。是中川が右隊伍を破崩し  
 けると同時あり。茲小松田政近が老童。可兒少藏といふ者  
 あり。主用ありける。十日の夜。本國丹波へゆきたるや。名。這戰場小  
 在合と。帰路の途小山崎の戦初むと。聆より。死が像ふ





天王山てんわうさんの主人しゅじんの戦死いくさし  
 を聆きく  
 可兒才藏かごさいざう  
 遅走おそまわ小こ  
 奮登ふるとう十じゅう

豊臣記六巻之三

豊臣記六巻之三

三



走著看れぬ。恰と主人の戦死しう。自方も山を敗走しう。  
 追逐されし相を看く。眼血奔髪逆衝一騎もあれ當  
 の敵を撃得るをう罷つて。怒雷の像く大喝一声。逆出  
 きて溝尾庄を過り只顧止りて理と説示し。在益の合戦  
 後死し。武士の女意を失ふをされと割されども更子  
 矜容ぞ。各々右も左も。我の主人の仇を視て。適まき  
 祝あり。と袖釋放し。一嶺小山の方當同馳来る。時小南方  
 の女陣中。筑前守掌く猶山方の勝敗氣煩く。なれ。維く  
 ある天王山の蹠蹠を窺ひ來れと宣ふ。奉明とると  
 福島市松其采馬と騎出。背路を馳く。山下小辺づき。  
 那邊と視れぬ。や遠眺山上の自方勝を得く。敵一人も

あつさるゆゑ福島ゆゑ。朽憾等と振りて。まつるころく。  
 可児少義只一騎。憤怒不堪く走來る。福島をれと看  
 よりも舌鼓し。大い歡ひ。聲振んとて馳進ける。

繪本豊臣勳功記六編卷之三終



